

経済建設常任委員会 行政視察報告書

第1日目

年 月 日 平成27年10月19日(月) 午後1時30分～午後3時00分

視 察 先 長崎県大村市役所

対 応 者 大村市議会事務局長(朝長 悟) 書記(中村宏昭)
大村市役所商工振興課長(大田武義) 係長(河野康則)

視察項目 歴史を活かした観光振興について

選定理由 大村市は、玖島城跡・本経寺大村藩主大村家墓所等の史跡、またキリスト教関連史跡が点在し歴史的な資源を有しています。歴史的資源を活用するため、平成18年3月に「歴史を活かした観光振興計画」を策定し、観光客の誘客に努めていることから参考としたいため選定した。

大村市の概要 大村市は長崎県のほぼ中央に位置し、高速交通網に恵まれた県央拠点都市として、県内の中で唯一人口が着実に増加している市です。平成34年には、九州新幹線西九州ルート(長崎ルート)の開通により「新大村駅」(仮称)や長崎空港、高速道ICが揃うなど、高速交通拠点として魅力ある地域である。
人口：93,921人 世帯数：40,512世帯
市域面積：126.66km²
平成27年度一般会計当初予算額：35,600,000千円

事業概要 大村市では恵まれた自然と豊富な歴史的観光資源(日本で最初のキリシタン大名・日本で初めてヨーロッパ文化をもたらした「天正遣欧少年使節」など)を、有しているので、これらの魅力を効果的に情報発信し、観光客の誘致に努め、来た方々が「また来たい」と、思ってもらえる様な取り組みをするために、平成18年3月に「歴史を活かした観光振興計画」を策定し、観光関連事業者等16名による「歴史を活かしたまちづくり戦略協議会」と協働による事業を推進している。

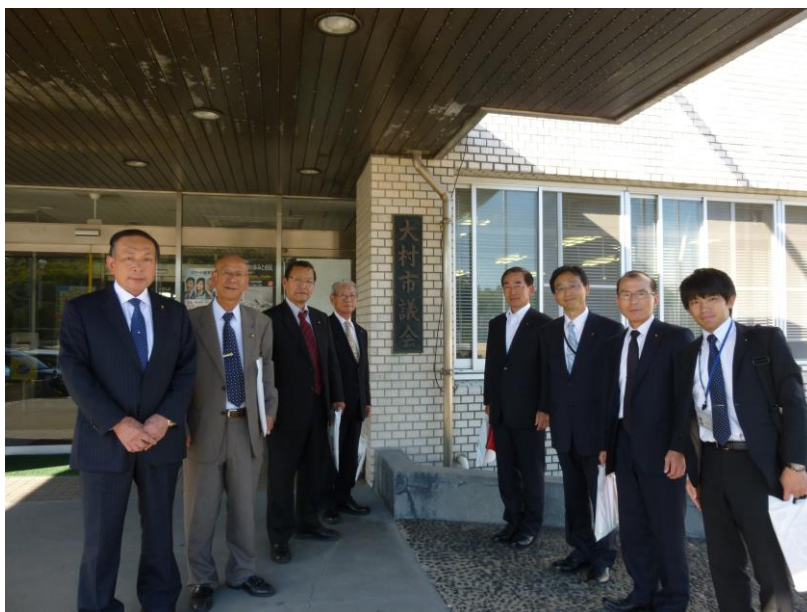
観光客誘致の一つとして、大村市の魅力をアピールする情報発信、観光パンフレット・ホームページ「大村観光ナビ」、観光プロモーション用DVD製作・福岡都市圏をターゲットにしたPR、また、



主要な観光施設への総合案内板の設置を行っている。次におもてなしの心として、観光案内ボランティア育成・派遣を実施。平成26年度には3,339人の案内、ガイド369人の派遣を行い、観光客の満足度を高めリピーターを多く獲得できるように受け入れ態勢の強化を図っている。また、まちなか観光ルート開発（市内周遊観光バス）・まち歩き観光・観光交流イベント（灯籠まつり）を実施し、市内の史跡などを巡りながらボランティアガイドが観光案内を行っている。最後に歴史観光と併せて取り組んでいるのが、グリーンツーリズム（体験型観光）である。全国地産地消優良団体として農林水産大臣賞を受賞した「おおむら夢ファーム シュシュ」で農村レストラン・体験教室、団塊世代をターゲットにした農業塾など実施することで、修学旅行生や一般旅行客の増加による経済効果を図るため、地域全体で観光まちづくりを進めている。

感 想

時間的配分の厳しい日程の中、大村市担当職員の詳細な説明を受け、また、藤岡市議会の各委員からも内容の濃い活発な質疑が行われました。藤岡市にも大村市に引けを取らないほどの沢山の歴史的遺産がある（世界文化遺産高山社跡・ゼロ戦設計の堀越二郎・世界三大数学者 関孝和・関東管領の上杉平井城跡・上州藤岡の鬼師・沢山の古墳群）などがあるが、当市では観光に結びついていない。今回の視察ではそれらの観光資源をいかに活かして藤岡市の観光をしていくのかを考えた時、今回の大村市の歴史を活かした観光振興については、大変充実した視察であったと確信しており、十分に視察の目的（客数の増加による経済の活性化）に叶うものと思います。今回の視察により得た内容については今後の市政に反映させ、藤岡市の発展に繋げて行きたいと思います。



第2日目

年 月 日 平成27年10月20日(火) 午後1時00分～午後2時30分

視 察 先 佐賀県唐津市役所

対応者 唐津市議会議長(田中秀和) 唐津市議会事務局副局長(吉田 稔)
唐津市役所商工ブランド課長(原田哲也) 市街地活性化推進係長(宮崎拓実)
中心市街地活性化協議会タウンマネージャー(佐藤直之)

視察項目 商店街活性化事業・空き店舗対策事業について

選定理由 唐津市は、市街地再生重点支援事業による県の支援を受け、商店街の景観形成事業としてファサード整備を先導的に行い、統一的な景観形成及び魅力的な個店づくりを進めることで商店街の活性化を図っていることから、参考としたいため選定した。

唐津市の概要 唐津市は、佐賀県の西北部に位置し、東部は福岡県、佐賀市、西部は伊万里湾を経て長崎県と、南は多久、武雄、伊万里の各市にそれぞれ接し、北部は玄界灘に面した沿岸地域で、美しく変化に富んだ自然と大陸との交流の歴史を背景に、農林水産業をはじめとする産業や伝統的な地域文化が育ち、優れた観光地としても発展してきた地域である。
人口：126,820人 世帯数：49,985世帯
市域面積：487.54km²
平成27年度一般会計当初予算額：66,694,495千円

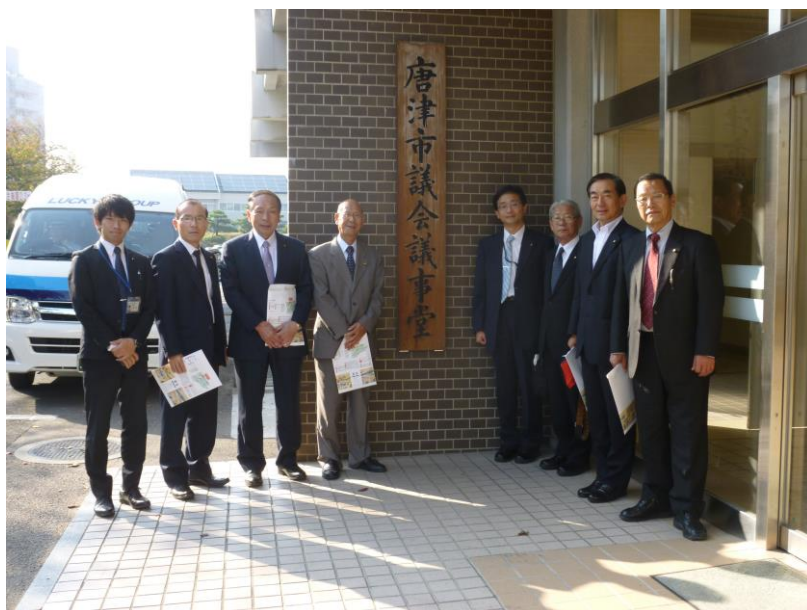
事業概要 唐津市は商店主の高齢化、商店街における後継者不足によって、閉鎖する店舗が増え、現在から45年後には唐津市の人口が半減するという推計から、単に商店街だけを活性化するのではなく、都市全体をコンパクトなまちにするために、ソフト・ハードの両面からの取り組みを実施している。平成16・17年度の2ヶ年で、佐賀県ががんばる商店街施設整備事業による支援を受け、大手通り・中町通り等景観形成事業として10店舗のファサード整備を先導的に行い、大正から昭和初期の雰囲気を醸し出す空間づくりを行った。その結果、景観整備を通じて前向きに取



り組もうという意欲を示す商店主が増加したことから、整備区域(全68店舗、うち10店舗整備済)を設定し、平成18年度からの3ヶ年計画でファサード整備を継続実施して、新たな観光スポットとして新しい町並みを形成した。平成27年4月1日には、中心市街地活性化を推進するための事業や取り組みを、都市経営的な発想をもとに調整やコーディネートすることを目的とした「唐津市中心市街地活性化タウンマネジメント業務委託」を締結し、観光客・消費者等の集客を図り、中心商店街を活性化している。

感想

時間的配分の厳しい中、唐津市担当職員や市街地活性化協議会タウンマネージャーの熱のこもった詳細な説明があり、また、藤岡市議会の各委員からの内容の濃い活発な質疑が行われました。藤岡市でも唐津市と同じように商店主の高齢化・後継者不足によって、空き店舗が増え街中がさみしい状態になっています。今回の唐津市の商店街活性化事業・空き店舗対策事業については、当市のこれからの商業振興にとって、大変充実した視察であったと確信しており、十分に視察の目的に叶うものと思います。今回の視察により得た内容については今後の市政に反映させ、藤岡市の発展に繋げて行きたいと思っています。



第3日目

年 月 日 平成27年10月21日(水) 午前10時30分～午前12時00分

視 察 先 福岡県福津市あんずの里

対 応 者 福津市議会建設環境委員会委員長(礎野九州男) 事務局議事課長(小田雄一)
福津市役所農林水産課長(古川浩二) あんずの里市利用組合長(柴田文敏)

視察項目 6次産業化の取り組みについて

選定理由 福津市では、軽トラ青空市を始めた女性グループが、平成8年に農産物直売所「あんずの里」を開設した。地元で生産した農水産物や加工品を直売所で販売し、地元食材を使用して、レストランを運営している。また、地元自治体と連携し小中学校へ組合員を派遣し食農教育を行っていることから参考としたいため選定した。

福津市の概要 福津市は、福岡県の北部、福岡市と北九州市の近隣に位置し、北東側は宗像市、南東側は宮若市、南側は古賀市に隣接しており、西側は玄界灘に面しています。交通網は東西にJR鹿児島本線、国道3号が延び、海岸線と並行して国道495号が走っています。さらに、近くには九州自動車道若宮インター、古賀インターもあり広域的な交通利便性に富んでいる地域である。
人口：59,293人 世帯数：24,396世帯
市域面積：52.76km²
平成27年度一般会計当初予算額：20,370,318千円

事業概要 福津市では「女性が主役の農業を！」を合言葉に女性30人で始めたトラック市が始まりで、平成8年には補助事業により常設直売所「あんずの里市」が、開設された。今では売上高4倍、雇用数6倍以上、来訪者4倍以上(年間40万人)出荷者300人となり、地域交流の活性化の拠点となり、組合員の所得の向上にも貢献している。同年には「あんずの里利用組合」を設立し、地元農家による栽培・加工・販売する6次産業となっている。



組合員は約300名おり、ほとんどが女性で、女性主体の交流活動が農村女性の生きがいや活力あるまちづくりを実現している。平成17年1月には地元産の

食材を使ったレストラン「ふるさと」を併設し、年間約 10,000 人が利用する施設であり、高齢者だけでなく、子ども連れの若い女性にも人気となっている。

また、平成 14 年 12 月には、地元小中学校へ給食食材として地元産野菜を納入し、今では 30 品目を超え野菜購入量の 50%以上を担っている。学童農園の栽培や年 1 回の給食交流会、「あんずの里市」での販売体験など小中学校と連携し、食育の取り組みにも力を入れている。

感 想

視察は福津市のあんずの里で行われ時間的配分の厳しい中、あんずの里市利用組合長の熱のこもった詳細な説明を受け、また、藤岡市議会の各委員からの内容の濃い活発な質疑が行われました。藤岡市には、あんずの里を上回る大きな施設「ららん藤岡」がありますが、零細農家のお年寄りが、ららんの出荷場にただ出荷しているだけで所得の向上にはならない。また、レストランもチェーンストア店が多く、藤岡市の地元食材を使用しない。今回の福津市の視察で、農村農業の活性化交流を如何にしていくのか、農産物を栽培・販売するには小品目大量生産から多品目少量栽培がいかに大事か、学校給食に地元食材をいかに取り入れて頂くか。それが理解でき、大変充実した視察であったと確信しており、十分に視察の目的に叶うものと思います。今回の視察により得た内容については今後の市政に反映させ、藤岡市の発展に繋げて行きたいと思います。視察終了後に、この地元産の食材を使ったレストランで、委員全員で昼食を頂き、地元の人達やお客さんと交流出来たのが大きな収穫でありました。



以上の通り報告します。

平成 27 年 12 月 11 日

経済建設常任委員会

委員長 湯井 廣志

副委員長 丸山 保

委員 橋本 新一

窪田 行隆

茂木 光雄

針谷 賢一

隅田川徳一